

取組名		10年後に目指したい将来像	振り返りの総括
16	農業の振興	農村の魅力が再認識されて移住・定住者が増え、活力ある農村コミュニティが形成されています。大阪・神戸等に近い地理的優位性を活かし、産官学連携等による三田産農畜産物の6次産業化・ブランド化により商品開発や販路の拡大等が進み、「農」が三田の顔となっています。障害のある人が農へ参加する農福連携が進み、若者や高齢者、社会で生きづらさを抱える人等と農に関心がある人が農業を通じてつながっている仕組みが確立しています。	前期計画期間では、アンケートや地域ごとのワークショップを開催し、9割を超える地域で10年後の地域の農業の姿を示した地域計画を策定した。この経緯の中で、持続可能な営農に向けては、担い手の確保、鳥獣害対策、水路等の生産基盤の維持管理の3つが課題として浮き彫りとなった。この対策として新規就農者の拡大に向けた啓発に加え、農機の導入や生産基盤整備の支援、有害鳥獣防除柵設置や捕獲活動の支援など、多様な取組を展開してきた。併せて、学校給食においても環境配慮と地域ブランドを意識した食育を推進してきた。 また、農福連携窓口、農福連携技術支援者の設置により農福連携の仕組みづくりは達成できた。福祉事業者の役務提供体制に課題があり、農業の担い手拡大の効果は限定的であるが、引き続き農業への理解促進と障害者の社会参加を目的に農福連携への支援を継続する。 具体的な活動指標については、農業者の高齢化、気候変動や価格変動による農業経営の不安定さ、里山環境の変動、ブランド力の伸び悩み等、様々な要因を背景として達成が困難な状況である。 後期計画では、これら複合要因に対応すべく従前の取組に加え、農畜産物のブランド力強化による所得向上、先端技術を活用したスマート農機導入や土地改良等による農業の効率化を促進し、新規就農者の育成や既存経営体の拡充による担い手確保、安心して営農継続できる農村環境の維持など、幅広い取組を推進する必要がある。 また市内産の農畜産物がどのような流通で市場に出ているのかの情報の把握と、積極的な発信の必要がある。

市民意識調査の結果		指標等の進捗状況							
重要度	3.99	指標名		基準値 (R2)	方向性	R4	R5	R6	目標R8
重要度 平均からの 偏差	0.01	1	認定農業者数及び認定新規就農者数	88経営体	↑	77経営体	72経営体	65経営体	100経営体
重要度順位	11/25位	2	鳥獣害の農作物被害額	8,720千円	↓	9,808千円 (R3)	9,862千円 (R4)	10,370千円 (R5)	6,500千円
満足度	3.05	3	三田牛の出荷頭数	209頭	↑	101頭	79頭	73頭	250頭
満足度 平均からの 偏差	-0.03	4	獣害対策柵の設置総延長	201km	↑	208km	214km	222km	260km
満足度順位	12/25位	5	学校給食での地場産野菜使用率	31.3%	↑	28.6%	20.4%	25.0%	35.0%

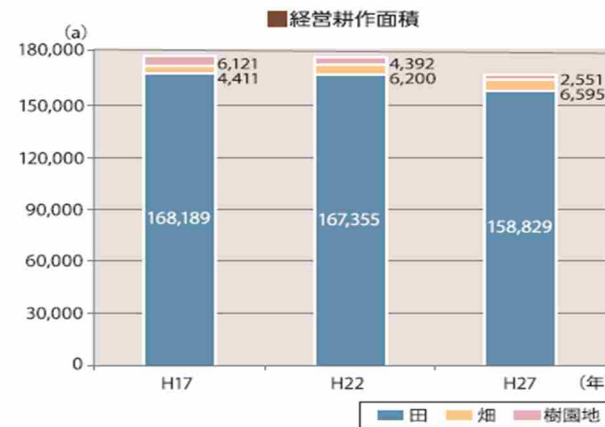
「三田らしい」活力と交流のあるまち ～にぎわいづくり～

16 農業の振興

1. 10年後に目指したい将来像

農村の魅力が再認識されて移住・定住者が増え、活力ある農村コミュニティが形成されています。大阪・神戸等に近い地理的優位性を活かし、産官学連携等による三田産農畜産物の6次産業※化・ブランド化により商品開発や販路の拡大等が進み、「農」が三田の顔となっています。障害※のある人が農へ参加する農福連携※が進み、若者や高齢者、社会で生きづらさを抱える人等農に関心がある人が農業を通じてつながっている仕組みが確立しています。

2. 10年後に心配される三田の状況		3. 10年後に目指したい三田の状況	取り組み
A	農業者の高齢化、後継者不足や獣害被害の拡大により耕作されない荒廃した農地が市内に多く発生していること	集落で描いた将来像に基づき、多様な担い手やパートナーとの連携により、変化し続ける課題を乗り越え、農地を有効に活用し、活力と魅力のある農業が展開されていること	① ④
	B 収益性が低く、また農業の効率化が進まないため、農業が魅力ある産業でなくなっていること	デジタル技術やドローン等を活用したスマート農業※の取り組みが進み、生産性や品質、収益性の向上また労働力の低減が図られ魅力ある産業へと成長していること	②
	C 三田産農畜産物の特色が乏しく、三田産農畜産物の魅力が伝わっていないこと	地理的優位性を強みに販路が拡大し、ブランド化した三田産農畜産物が国内外に流通していること	③
	D 市民に「農」の必要性や重要性が理解されず、農業者の生産意欲の低下やコミュニティが希薄化し農村の活力が低下していること	農業者、市民、事業者、大学、行政等が互いに農の価値を再認識し、知恵を出し合い、共創の考えのもと、三田の農村に活力が生まれていること	① ⑤
	E 子どもたちの農畜産業への関心が低下し、食の大切さや地産地消への関心が低くなっていること	子どもたちへ食の大切さを伝えることで、子ども達が大人になっても地産地消への関心が高まり、市内での農畜産物の利用拡大が図られていること	⑥



※6次産業

1次産業(農林水産業)が2次産業(加工)・3次産業(サービス・販売)と連携して経営の複合化・多角化を進めることをいう。近年では、各産業の単なる寄せ集め(1+2+3)ではなく、相互の産業を有機的・総合的に結合を図ること(1×2×3)が提唱されている。

※障害「障害」の漢字表記については12ページ参照

※農福連携 77ページ参照

※スマート農業

デジタル技術やロボット技術を活用して、省力化・精密化や高品質生産の実現等を推進している新たな農業をいう。

※特別栽培農産物

地域の慣行レベルに比べて、節減対象農薬の使用回数が50%以下、化学肥料の窒素成分が50%以下で栽培された農産物をいう。

※認定農業者 44ページ参照

※テレワーク 45ページ参照

※半農半X

農業収入の他に、兼業収入を加えて生計をたてるライフスタイルをいう。

※認定新規就農者 44ページ参照

「三田らしい」活力と交流のあるまち ～にぎわいづくり～

【16】 農業の振興

1 10年後に目指したい将来像

農村の魅力が再認識されて移住・定住者が増え、活力ある農村コミュニティが形成されています。スマート農機の導入や生産基盤整備による効率化、都市に近接する地理的優位性を活かした公民連携による6次産業化・ブランド化の推進や鳥獣害の低減による収益性の向上が進み、既存の農業者や新たな就農者、営農団体や法人などの農業経営体だけでなく、農業体験事業や農福連携を通じ若者や高齢者、社会で生きづらさを抱える人など多様な主体が農業に関わり、地域の基幹産業である農業が三田の顔となっています。

2 10年後に心配される三田の状況	3 10年後に目指したい三田の状況	取り組み	指 標
A 農業者の高齢化、後継者不足や鳥獣害の拡大により耕作されない荒廃した農地が市内に多く発生していること	集落で描いた将来像に基づき、多様な担い手やパートナーとの連携により、変化し続ける課題を乗り越え、農地を有効に活用し、活力と魅力のある農業が展開されていること	① ④	a, b
B 収益性が低く、また農業の効率化が進まないため、農業が魅力ある産業でなくなっていること	先端技術を活用したスマート農業、温暖化に対応した品種改良、生産基盤の整備が進み、生産性や品質、収益性の向上また労働力の低減が図られ魅力ある産業へと成長していること	②	a, b
C 三田産農畜産物の特色が乏しく、三田産農畜産物の魅力が伝わっていないこと	地理的優位性を強みに販路が拡大し、ブランド化した三田産農畜産物が国内外に流通していること	③	c
D 市民に「農」の必要性や重要性が理解されず、農業者の生産意欲の低下やコミュニティが希薄化し農村の活力が低下していること	農業者、市民、事業者、大学、行政等が互いに農の価値を再認識し、知恵を出し合い、共創の考えのもと、三田の農村に活力が生まれていること	① ③ ⑤	a, b, c
E こどもたちの農畜産業への関心が低下し、食の大切さや地産地消への関心が低くなっていること	こどもたちへ食の大切さを伝えることで、こどもたちが大人になっても地産地消への関心が高まり、市内での農畜産物の利用拡大が図られていること	⑥	d

4. 取り組み

市民

- ◆美しい農村風景を次の世代に引き継ぐため、農業者と協力して農地の保全に努めます。
- ◆農業・農地を守るため、三田産農畜産物を積極的に購入するなど、地産地消を推進します。
- ◆食の大切さを学ぶとともに、ふるさとに愛着が持てる食育に取り組みます。

事業者・団体等

- ◆安全安心な特別栽培農産物※の提供、農村のよりよい維持管理・知恵・技術の伝承に努めます。
- ◆先進技術を取り込み、作物の品質、生産性や作業効率の向上を図るなど、所得向上を目指します。
- ◆三田産農畜産物のブランド力を向上するとともに地産地消や地産外商を推進します。

市

④ みんなで支える三田の農業

三田の農業は家族農業、集落営農や認定農業者※等が力を合わせ支えあってきましたが、高齢化や担い手の減少等、農業を取り巻く環境は転換期を迎えているため、住民と関係機関が共に知恵を出し合い、集落ごとの農業の将来像を描き、持続的な農業や農地機能の維持体制づくり、若者や女性等の多様な新たな担い手の育成を進めます。

⑤ スマート農業の導入で作業の自動化・省力化を実現

関係機関や民間企業等と連携して実証試験等に取り組み、課題解決や地域事情に応じたスマート農業の普及・定着を進め、農業技術継承や作業の自動化・省力化、高品質化を図り、生産性の高い農業を目指します。スマート農業の円滑な推進のため、人材育成や農業用ドローン、遠隔捕獲システム等の共同利用等での導入を支援します。

⑥ 農畜産物のブランド力強化と生産者所得の向上

三田産農畜産物の更なる良質化を進め「選ばれる商品」の開発を支援するため、専門家による相談・支援体制の整備によりブランド力を強化します。新たな市場開発に向けた商品の売り込みや商談の仲介等、農商工連携による販売先と農業者等のマッチングを支援する等、新たな販路開拓の仕組みづくりを進め、生産者の所得向上を目指します。

⑦ 新たなライフスタイルが実現できるまち三田

テレワーク※や半農半X※等働き方が変わる中、安全安心な食の確保や自然とのふれあいを通じ、ゆとりと安らぎが実感できる農業体験型プログラムを構築し、農村で暮らす・過ごすという選択肢を提供し交流人口を増やします。さらに移住支援や空き家等の情報提供を組み合わせ、若者の転出抑制とU I Jターンにより活力のある農村を創出します。

⑧ 「農」への理解と農福連携の仕組みづくり

「農」への理解を深めるため、植え付けや草刈り、収穫等農業体験の推進により身近な農業の魅力を知ってもらい、農業への応援者・理解者を増やします。障害のある人が農へ参加する農福連携を積極的に支援するとともに、若者や高齢者、または社会で生きづらさを抱える人等で農業に関心がある人が農業を通して社会とつながる仕組みを確立します。

⑨ 未来を担う三田の子どもたちへの食育の充実

新鮮で安全・安心な特別栽培農産物等、地元産の食材を積極的に活用した学校給食等を通して、子ども達に三田の食べ物のおいしさ、地域の食文化や収穫体験等を通して農業の理解を促し、農畜産物への感謝の心を育みます。地産地消を進めることにより、三田の農畜産物の利用拡大を図ります。

4 取り組み

市民

- ◆美しい農村風景を次の世代に引き継ぐため、農業者と協力して農地の保全に努めます。
- ◆農業・農地を守るため、三田産農畜産物を積極的に購入するなど、地産地消を推進します。
- ◆食の大切さを学ぶとともに、ふるさとに愛着が持てる食育に取り組みます。

事業者・団体等

- ◆安全安心な特別栽培農産物の提供、農村のよりよい維持管理・知恵・技術の伝承に努めます。
- ◆先進技術を取り込み、作物の品質、生産性や作業効率の向上を図るなど、所得向上を目指します。
- ◆三田産農畜産物のブランド力を向上するとともに地産地消や地産外商を推進します。

●審議会委員意見を受けて変更を反映した場合●

「事業者・団体等の取り組みを変更」→質疑回答票 No.132

(下記に包含)◆三田産農畜産物のブランド力を向上するとともに地産地消や地産外商を推進します。

(新規)◆個々の農業者のみならず、集落営農組織やまちづくり協議会など地域ぐるみでブランド力や収益性、生産性の向上に取り組み、農業経営の安定化を目指します。

市

④ みんなで支える三田の農業

農業者の高齢化や担い手の減少、農村部における鳥獣害への対策等が課題となっています。地域住民と関係機関が共に知恵を出し合い、集落が目指す将来像の実現に向けて、若者や女性等の多様な新たな担い手の育成を進め、持続的な営農体制、環境づくりを目指します。

⑤ スマート農業の導入で作業の省力化・効率化を実現

ドローンやI o T、G P S等の先端技術を活用した農業機械の開発、普及が進んでいることから、地域の事情や農地の形状、農業者のニーズに応じて、これらの機器の導入を支援することにより、農作業の省力化を図り、営農の効率化を進めます。

⑥ 農畜産物のブランド力強化と生産者所得の向上

三田産農畜産物の更なる良質化、生産拡大に向け生産者の取組を支援します。また、市が率先し農商工連携を進め、生産、加工、流通、販売や観光など多様な主体が一体となって新たな魅力の創出・発信によるブランド力強化に取り組むと共に、特産品が円滑に消費者へ届くよう市場・販路の開拓を進めます。これらの取組により、農業者の生産意欲、所得の向上を目指します。

⑦ 新たなライフスタイルが実現できるまち三田 ★人口減少対策★

テレワークや半農半Xなど働き方が多様化し、安全安心な食への関心が高まる中、ゆとりと安らぎが実感できる農村で暮らすという選択肢を提供できるよう農地とのマッチングを進めると共に、移住支援や空き家等の情報提供を組み合わせ、若者の転出抑制とU I Jターンにより活力のある農村を創出します。

⑧ 多様な人材が農業に関わり「農」への理解を深める

農作物の植え付けや草刈り、収穫などの農業体験の機会の拡充や農福連携の推進により、身近な農業の魅力を知ってもらい、こども、若者、高齢者、社会で生きづらさを抱える人など、農業に関心のある人が農業を通じて、地域や社会とつながる機会を拡充し、農業への応援者・理解者を増やします。

⑨ 未来を担う三田のこどもたちへの食育の充実

地元食材を活用した特色あるメニューを取り入れ、旬の野菜を計画的に使用するなど、地域資源や特産品を最大限に活用し、学校給食を通して、こどもたちが食の大切さや地域農業の魅力を学ぶことで、農業の理解を促し、農畜産物と生産者への感謝の心を育みます。この取組を通じて地産地消を進め、三田の農畜産物の利用拡大を図ります。

5. 成果指標等

指 標 名	基準値	基準年	目標値 (R8)
認定農業者数及び認定新規就農者※数	88経営体	(R2)	100経営体
鳥獣害の農作物被害額	8,720千円	(R2)	6,500千円
三田牛の出荷頭数	209頭	(R2)	250頭
獣害対策柵の設置総延長	201km	(R2)	260km
学校給食での地場産野菜使用率	31.3%	(R2)	35.0%

■主要な条例・規則及び関連計画

条例・規則	三田市鳥獣被害対策実施隊設置規則
関連計画	三田市農業基本計画、三田市農業振興地域整備計画、三田市食育推進計画

◆評価指標

	指標名	現状値（基準年）	目標値（R13）
—	KGI 施策重要度・施策満足度	重要度：3.99pt 満足度：3.05pt	↑
—	KGI （客観的指標）耕地面積	1,990ha（R6）	維持
a	KPI 農地バンクマッチング件数（累計）	123 件（R6）	400 件
b	KPI 鳥獣害の農作物被害面積	9.2ha（R6）	6.0ha
c	KPI 三田牛の出荷頭数（三田肉の出荷量）	73 頭【26.5t】（R6）	基準年より増
d	KPI 学校給食での地場野菜使用率	25.0%（R6）	30%

◆主要な条例・規則及び関連計画

条例・規則	三田市鳥獣被害対策実施隊設置規則
関連計画	三田市農業基本計画、三田市農業振興地域整備計画、三田市食育推進計画

最上位指標
市民の幸せ実感度の向上

【資料37-3】
※資料34-3の最新版

	KGI（成果指標）	KPI（活動指標・取組指標）		現状値	目標値 (R13)	指標の設定理由	所管課
16 農業の振興	（主観的指標） 施策重要度・施策満足度	-	新規	重要度 3.99pt 満足度 3.05pt	向上	全施策固定指標	-
	耕地面積	-	新規	1,990ha（R6）	維持	農業者の高齢化、新たな担い手の不足、鳥獣害の拡大など営農継続が困難となる要因は様々であり、その対策としては農業の省力化、効率化、収益性の向上等あらゆる方向性の対策が必要である。 それらの取組の成果として、農業の生産基盤である耕地面積に帰結するものと考えられるため。	農業振興課 農業委員会
		農地バンクマッチング件数（累計）	新規	123（R6）	400（R13）	農業者の高齢化、若者の農村離れが進む中、営農の継続が困難となる事案に対しては、農地の流動化を進め新規就農者など新たな担い手に繋げていくことが必要である。 市では農地バンクを設置し、就農を希望者と営農の継続が困難な農地所有者とのマッチングを進めている。	農業振興課
		鳥獣害の農作物被害面積	継続	9.2ha（R6）	6.0ha（R13）	前期計画では農作物被害額を指標としていたが、販売単価の変動等の影響を受け、農林水産省の農作物被害調査における被害額算出単価に大きな変更があった場合、被害面積が減少しているにもかかわらず、被害額が増額するケースやその逆のケース等において、成果を正しく評価できない可能性があるため、同調査において被害額とあわせて公表される被害面積を新たな指標とする。	農村整備課
		三田牛の出荷頭数（三田肉の出荷量）	継続	73頭【26.5t】 （R6）	基準年より増 （R13）	インバウンド需要の増加を背景に神戸ビーフの需要が高まっており、神戸ビーフとルーツを同じくする三田牛の出荷頭数は低迷している。 今後、三田牛を食べられる環境を整備し、三田牛に関心がある人や三田を来訪する人に三田牛の美味しさを知ってもらえるよう三田牛の生産者、流通に関わる事業者等と連携し、安定供給体制の再構築を進める。	農業振興課
		学校給食での地場野菜使用率	継続	25.0%（R6）	30%（R13）	三田の特産品や地場野菜を食材として学校給食に取り入れ、地産地消を推進するための指標として、現指標の「地場野菜の使用率」を継続する。	農業振興課 学校給食課